

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	84.4	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	93.3	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	97.8	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎自ら課題に向き合い、学び方を工夫しながら学習に取り組もうとする姿が見られます。

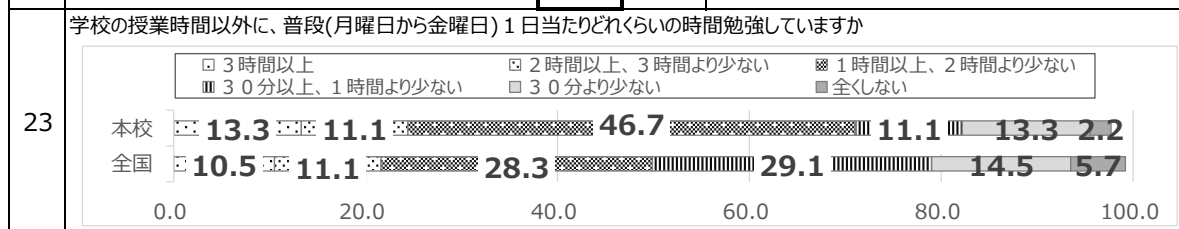
◎対話や協働を通して、学びを深めようとする意識も高い傾向が見られます。

●学びを振り返りながら、自分に合った学び方を選択・調整し、学習をさらに自分ごととして進めていく力を高める必要があります。

●学校と家庭が連携し、学習内容や学習環境の更なる充実を図っていく必要があります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	88.9	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	86.6	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	93.3	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	86.6	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	93.3	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.3	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が学校生活を前向きに捉え、自分のよさを感じながら生活している様子が見えられます。

◎人や社会の役に立ちたいという思いをもち、他者や社会への関心は高い傾向が見られます。

●将来の夢や目標と、現在の学びや生活とのつながりを実感できるような支援が必要です。

●様々な学習・体験活動等を通して、社会や地域との関わりを感じ、自分も社会の一員であるという意識を高めていくことが求められます。

《質問領域：向社会的性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.5	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	66.7	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

○自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。

○地域に関する学習や体験活動、係活動や委員会活動などを通して、人の役に立つ実感をもったり、地域の方々とのつながりをもったりして、社会の一員であるという意識を高めていきます。

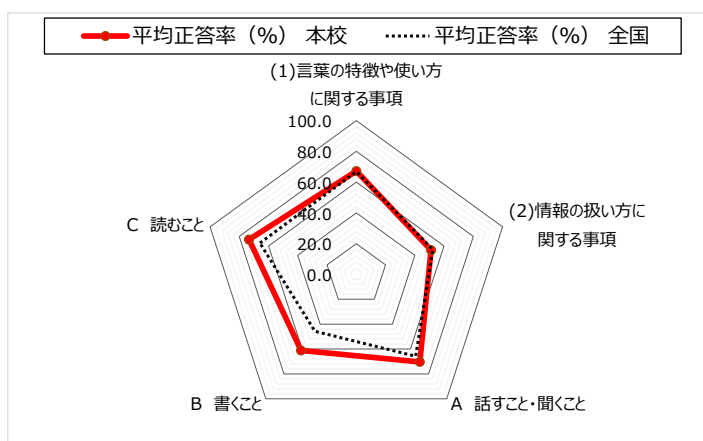
【ご家庭では】

○お子さんの話に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたは どうしたい？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。

○結果だけでなく挑戦する過程にも目を向け、「何か手伝えることはある？」という伴走の姿勢で見守ってください。よいところや頑張りを見付けて、温かい励ましの言葉を掛けてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	67.2	66.8
	(2)情報の扱い方に関する事項	51.1	52.3
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	70.4	65.8
	B 書くこと	61.1	45.7
	C 読むこと	73.3	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	64.7	61.9
短答式	66.7	62.6
記述式	67.8	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査で、「書くこと」が15.4ポイント上回りました。また、記述式の正答率も全国平均正答率より12.9ポイント上回りました。スキルタイムでの文章を書く取組や普段の漢字や言葉の学習や音読の成果が表れていると考えられます。

● 課題は、知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項」の正答率を上げることです。正答率は51.1%となり、全国正答率を1.2%下回りました。苦手になっている児童が多くいます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3三(2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	86.7	76.4
2一	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	73.3	57.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1二(3)	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	53.3	65.2
3二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	48.9	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

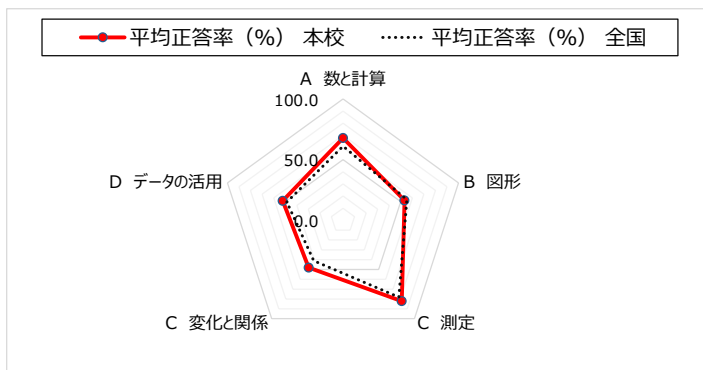
- 読む・書く・話す活動を関連付けた授業改善を進めます。
- 普段の授業の中で、文章だけでなく、図や表からも情報を読み取る方法を学ぶ機会を増やし、その情報を基に自分の考えをまとめる力を育てます。
- 読書の推進を図り、様々な表現の工夫に触れさせます。

【ご家庭では】

- お子さんの話を最後まで聞き、「どうしてそう思ったの？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	67.8	61.1
B 図形	53.3	55.3
C 測定	82.2	78.1
C 変化と関係	48.1	41.1
D データの活用	52.2	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	62.2	56.0
短答式	61.1	59.7
記述式	60.0	48.5

結果 ※◎（強み）、●課題

◎今回の調査では、特に記述式の問題の平均正答率が、全国平均正答率を11.5%と上回りました。自分の考えを、式や言葉を使って論理的に書く機会を増やすなどの授業改善の成果が表れていると考えられます。

●課題は、「B図形」の内容が全国平均より2%下回ったことです。図形の認識が弱く、題意の理解にも課題があると考えられます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	73.3	44.0
2 (2)	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる	64.4	53.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (2)	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	48.9	63.0
1 (4)	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	44.4	45.2

調査結果を受けて

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 算数に関する具体物に触れる機会や、生活で活用されているものを意識させる機会を増やすことで理解を促します。

【ご家庭では】

- 算数が好きな子にするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。